


学年	教科等	単元名	日時
第6学年	音楽科	音楽に思いをこめて	平成30年2月2日(金)2校時
本実践の主張	<p>本実践では、「ふるさと」のリズム、旋律、強弱の働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら歌唱することをねらっている。</p> <p>【音楽との出合わせ方の工夫】</p> <p>はじめに、曲名を伏せて、「ふるさと」を聴いた人（大人）の感想をいくつか伝える。「言葉が心にしみる」「家族に会いたくなった」「懐かしい気持ちになる」「何だか、泣けてくる」等を紹介し、本時の楽曲に対するイメージや期待感をもてるようにする。楽曲を聴いた後、「なぜこの楽曲を聴いた人がこのような感想をもったのか。」と問いかけ、歌詞の内容や曲想に関する発言を取り上げることで、本時の学習への関心が高められるようにする。</p> <p>【音楽的な見方・考え方を働かせるための工夫】</p> <p>子どもが「ふるさと」を歌唱する際、音楽を形づくっている要素の働きが生み出すよさや美しさを感じ取ることができるように、本時ではリズム、旋律、強弱を取り扱う。楽譜の強弱記号どおりに歌唱した後、そこからどのような場面が浮かんだか、どのような気持ちになるか、子どもが感受したことを引き出す。そして、その根拠が音楽のどの要素から感じたのか話し合う。例えば、子どもが『小鮎つりしかの川』のところは、大きな川ではなく小川が浮かぶ。」と答えたとする。その後根拠を尋ね、「デクレシェンドだから。」や「音がだんだん低くなっているから。」等楽譜を活用しながら確認する。子どもが感受したことから、知覚に繋げられるようにしたい。</p>		

音楽との出合わせ方の工夫



これは、今日学習する曲を大人が聴いた感想です。

どのような曲かな？

- 懐かしい気持ちになる。
- 家族に会いたくなった。
- 何だか泣けてくる。
- ゼ！日本の曲
- 言葉が心にしみる。

演歌だと思います。

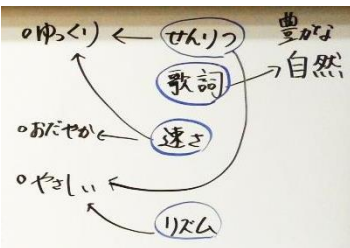
昔から歌われている曲だと思います。

君が代だと思います。

【子どもの予想】

大人の感想を伝え、どのような曲か予想した後「ふるさと」の鑑賞をさせた。子どもは「あ〜知ってる。」「やっぱり！」等と呟き、多くの子が「ふるさと」を知っていたり歌唱したりしたことがあった。その後、子どもが「ふるさと」を聴いて感じたことを話し合った。

T みんなはどう感じたかな？
C 穏やかな感じがしました。
T なぜかな？
C ゆっくりでした。
T 何が？
C 速さです。
T みんなはどうかな？
C いいと思います。



「ふるさと」が100年前に作られたことを知らせ、100年間歌い継がれている魅力を伝えられるような歌い方をしていこう、と単元のゴールを設定した。そのために、本時は、リズム、旋律、強弱に気を付けて歌っていこう、と見通しをもって学習を進めた。

音楽的な見方・考え方を働かせるための工夫

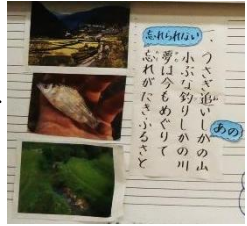
「ふるさと」へのイメージをもたせた後、リズム、旋律、強弱に気を付けて歌唱させ、どのような場面が浮かんだか尋ねた。

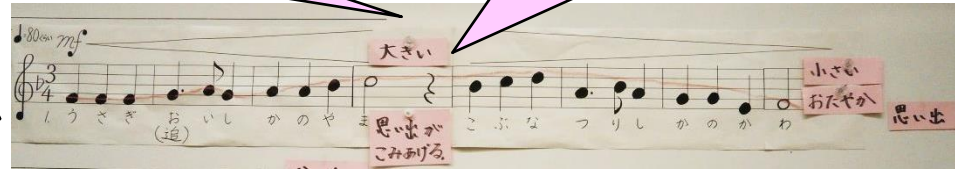
子どもが、楽譜どおりに歌唱できたと納得した後、問いかけた。

大きい山が浮かびました。

思い出が込み上げてきました。

歌詞を音読し、実際の舞台になった山や川の写真を提示して、情景がイメージできるようにした。





小鮎を釣った川は、穏やかな流れの小川だと思います。

子どもが感受した場面の根拠を、強弱を中心に拡大楽譜で確認した。クレシェンドやデクレシェンドから、子どもは大きいふるさとの山や穏やかな流れの川をイメージしていた。また、しみじみする感じは、音が下がっているからだ、と、旋律の流れを意識することもできた。

子どもが「ふるさと」の魅力を感じ取り思いを込めて歌唱するためには、もっと自分なりの「ふるさと」のイメージをもたせる手立てが必要だと感じた。歌詞の朗読やフレーズ感等、教材分析を重ね、子どもが少しでも感動できるような指導過程を工夫したい。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○ 指導計画（4時間）

- (1) 「ふるさと」の歌詞の表す情景や楽曲に込められた思いを感じ取って歌う。 _____ 3時間
- ・ 3拍子の流れにのった歌唱・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1（本時）
 - ・ 歌詞の内容や曲想を生かした表現の工夫・・・・・・・・・・ 2
- (2) 作曲者の思いを想像しながら、「交響曲第9番」を味わって聴く。 _____ 1時間

○ 本時の目標

リズム、旋律、強弱の働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら歌唱しようとする。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 本題材の楽曲に出合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習曲「カントリーロード」の歌唱 ○ 「ふるさと」を聴取した人の感想 ○ 「ふるさと」の聴取 <p>○ 本時のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> リズム、旋律、強弱に気を付けて歌おう。 </div> <p>2 「ふるさと」のイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉の意味や情景の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の挿絵や写真からのイメージ <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞の音読 <ul style="list-style-type: none"> ・ 6文字（3文字+3文字）+4文字 <p>3 「ふるさと」を歌唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 旋律の歌唱 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 旋律の動きの確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ※ ならかな山のようなイメージ（8小節の大楽節）  </div> <p>4 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一番思いを込めて歌いたい箇所 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「忘れがたきふるさと」のところに一番思いを込めて、歌いたいな。  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲名を伏せて、大人が「ふるさと」を聴取した感想を紹介し「どのような曲かな。」と問うことで、楽曲に対するイメージや期待感をもてるようにする。 ○ 子どもが「ふるさと」の聴取を行う際には、「みんなは、どのように感じるかな。」と伝えておくことで、歌詞や旋律を意識した鑑賞ができるようにする。 ○ 自分たちと大人の感想を基に「ふるさと」の魅力を話し合い、歌詞と旋律の美しさに意識を向けさせることで、本時の学習への関心が高められるようにする。 ○ 教科書の挿絵に加え、ふるさとを想像させる写真を提示することで、歌詞の情景を確認し、自分なりの「ふるさと」に対するイメージを広げることができるようになる。 ○ 楽曲ならではの言葉のリズムを意識して音読させることで、言葉の一つ一つを大切にされた歌唱へとつなげられるようにする。 ○ リズム、旋律、強弱に気を付けて歌唱させた後、どのような場面や情景が浮かんだか問いかけ、その根拠を明確にさせる。その際、子どもが感受したことを全体で共有するために、拡大楽譜を用いて確認する。 ○ 上の段と下の段を歌い比べることで、歌唱したときに浮かんでくる場面や情景が変わることに気付かせ、その根拠を全体で話し合う場を設定する。 ○ 拡大楽譜で旋律の流れを確認することで、音高や旋律の動き方を視覚的に感じ取ることができるようになる。 ○ 思いを込めて歌いたい箇所を教科書の楽譜に書き込ませた後に、全体で発表させることで、一人一人が自分なりの思いや意図がもてるようにする。

○ 学びの本質に向かっている子どもの姿

自分のイメージした「ふるさと」の場面を思い浮かべながら歌えたよ。次の時間は、「忘れがたきふるさと」のところに一番思いを込めて歌いたいな。

【関心・意欲・態度】

